

平塚の石仏めぐり (9. 長持・入野・寺田編組)
発行日：令和4年4月
編集：石仏を調べる会
発行：平塚市博物館
住所：神奈川県平塚市浅間町12-41
電話：0463-33-5111

浄信寺の徳本名号塔 (地図番号②)

「南無阿弥陀仏」を六字名号または名号といい、江戸時代以降各地で盛んに建立されました。特に徳本上人の花押がある名号塔は市内に 27 基ありますが、金田地区にはこの 1 基だけです。

正面には名号塔としての「南無阿弥陀佛」の銘と徳本上人の花押があり、右面は「大乘妙典三部經塔」と彫られています。一つの塔で 2 つの目的を兼ねたものです。嘉永 3 年 (1850) に再建されたものです。



徳本名号塔 (嘉永 3 年)

熊野神社の庚申塔 (地図番号③)

鳥居をくぐり参道を進むと左手に寛文 5 年 (1665) 造立の高さ 107cm 笠付き型庚申塔が参道に背を向け配置されています。

塔正面には鶏のつがい、下部には三面にわたり三猿が陽刻されています。銘文は正面に五輪を表す「カラバアカラバアカラバア」、下部に「奉造立□□□□内二世安樂也」が陰刻されています。塔裏面には「オンボクケン とうば」とあり、正面と裏面の梵字から「塔婆」ともとれる形式で大変珍しい石仏です。



庚申塔 (寛文 5 年)

福田寺の石仏 (1) (地図番号⑤)

曹洞宗の寺院で、寺田縄吉祥院の末寺です。本尊は、冠を被り瓔珞を付けている華嚴釈迦如来です。

福田寺には平塚市指定の重要文化財「紙本墨画淡彩 十六羅漢図 双幅」(仏の正しい教えを守ることを誓った 16 人の尊者)と「紙本着色 十王図 双幅」(十王と凄惨な地獄の様子)があります。両幅、同じ作者の東川とうせん 斎 桂山筆で天保年間の制作と推定されています。

結界石 山門手前の左側、安永 4 年 (1775) 造立の高さ 144cm、兜巾型の石柱です。正面に刻まれた「不許葷酒入山門」は修行の妨げになる葷(ニラ、ニンニクなど)や酒を山門内に持ち込むことを禁じています。

結界石は市内に 12 基あります。



結界石 (安永 4 年)

庚申塔 2 基あり、1 基は山門手前の塀横に嘉永 2 年 (1849) 造立の、塔正面「庚申塔 大磯道」、左面「大산道」、右面「やはたみち」と刻まれた道標を兼ねる文字塔の庚申塔です。もう 1 基は、本堂右前の植え込み中に元禄 10 年 (1697) 造立の「奉造立庚申供養爲二世安樂」と三猿を刻む板碑型の庚申塔です。

また、本堂左手前の無縁塔に集められた石塔の中には、中央正面に三宝荒神(台所の神・火除の神として信仰される)、二段目左端に兜巾型の馬頭観音などもあります。

福田寺の石仏 (2) (地図番号⑤)



庚申塔 (嘉永 2 年)



庚申塔 (元禄 10 年)

八坂神社の道祖神 (地図番号⑥)

昔は「牛頭天王社」といわれ、入野の氏神社です。桜並木参道を過ぎると、右手に道路拡張工事に伴って移動された各町内の道祖神が寄せられています。その中の明治 30 年 (1897) 造立の「堅牢地神」と刻まれた地神塔は、向町の道祖神として扱われていました。ダンゴヤキは神社境内と金目川河川敷で実施しています。

そのほか社殿前左右に大正 10 年 (1911) 造立の風格ある狛犬や鳥居、手水石、石段供養塔もあります。



道祖神 4 基と地神塔

少林寺の六地蔵 (地図番号⑧)

臨済宗の寺院で武州多摩郡山田村(現八王子市山田町)広園寺の末寺で、室町前期の応永 31 年 (1424) の創建と伝えられています。

墓地入口の覆屋に丸彫立像の六地蔵が並び、大きな耳で短い首を前に向けて首飾りを付けており、厚い衲衣を羽織る少し特異な像容をしています。造立年代は不明ですが、尊名と持物は江戸時代に編纂された『仏像図彙集』に則っています。



六地蔵 (年代不詳)

成願寺の石仏 (1) (地図番号⑨)

天台宗高根荘厳寺の末寺で、本尊は阿弥陀三尊です。古くは伊勢原村にあり、天正 8 年 (1590) 当地へ移ったといわれています。

名号塔 参道の左側に三段の石垣と基壇などを含めて総高 338cm の「南無阿弥陀佛」と書いた名号塔が立っています。

左面に「一人一切人 一切人一人 一行一切行 一切行一行 十界一念融通念佛 億百万遍 功德圓滿」と偈頌が書かれています。これは平安時代後期の良忍が夢告で阿弥陀如来から得た融通念仏の教えです。大意は「一人一人の念仏は小さくともそれが全員の念仏と融通しあえば 大きな功德となって 全員に行きわたる」という考えです。

成願寺の石仏 (2) (地図番号⑨)

この石塔は、明治 28 年 (1895)「当山十八世圓脩謹誌」とあり、本寺荘厳寺や近在の龍福院、明珠院などの協力のもと、多くの村々、人々が發起人となって造立されたもので、当時の融通念仏が隆盛していたことが伺える石塔です。



名号塔 (明治 28 年)

地蔵 本堂前に設えた覆屋に大きな蓮華座に坐る丸彫の地蔵は、少し風化が進んでいますが調和のとれた像容です。

台石左面に「信のうえ 伊那郡高遠領荒町邑 石工 北原清左衛門長英」銘があります。衲衣の丁寧な彫りや敷しき拵子の精緻な菊花紋に高遠石工の優れた彫技が伺えます。また塔身正面には「現在未来天人衆……勿令墮在諸惡趣」と地蔵本願經卷二の偈頌が書かれています。これは「現在未来の天界人界の衆生よ 地蔵にねんごろに附属して大神通力、方便力をもって 惡趣におちないようにしよう」という意味です。文化 2 年 12 月 (1805) の造立です。



地蔵 (文化 2 年)

吉祥院の石仏 (1) (地図番号⑫)

室町時代中期の永享年間にかくそうそうしゅん 聖叟宗俊が開山。曹洞宗で本尊は釈迦如来です。

馬頭観音 寺田縄には馬頭観音が 3 基あり、そのうちの 2 基が墓地入口にあります。

慶応 4 年 (1868) の銘があるこの塔は、一面二臂の立像でお顔は慈悲相です。頭上の馬頭は顔が欠け耳だけが残っており、馬頭観音の特徴でもある衣の裾が巻いています。

また、明治 4 年 (1871) の舟形の文字塔は、正面に「馬頭観世音 馬頭観世音」と 2 行に彫っており 2 頭の愛馬の供養塔と思われます。

釈迦如来 山門を入った右側に釈迦如来が祀られています。市内には 5 基あり、立像はこの 1 基だけです。

左手は衆生の願いを叶えてくれるという与願印、右手は欠落していますが恐怖を取り除いてくれるという施無畏印です。

正面に「願以此功德 普及於一切」の偈頌、念仏などただ一つの修行に専心することを表す「一行心」、その下に「満海」の銘があります。



馬頭観音 (慶応 4 年)



釈迦如来 (年代不詳)

吉祥院の石仏 (2) (地図番号⑫)

右側に寛文 3 年の庚申塔があり「勧願主満海」と彫っていることから同年代に造立されたものと思われます。

庚申塔 金田地区で一番古い寛文 3 年 (1663) の銘がある板碑型三猿庚申塔です。碑面右側に「奉建立庚申石塔爲二世安樂也」と刻んであり、中央に真言を唱えれば全ての罪業が取り除かれるという光明真言が梵字で丁寧に刻んであります。

三猿の目は丸く、手足の指の線もはっきりしています。三猿は横一列でふくよかに彫っており龍前院型の猿像に似ています。緻密に彫られている貴重な庚申塔です。

宝篋印塔 境内左側の木々の中に高さ約 90cm の塔が 2 基あります。1 基の基礎正面に永正 5 年 (1508) の銘があり、大島 宗真寺の応永 6 年 (1399) の塔に次いで古い塔です。相輪の部分には五輪塔の空風輪が載せてありますが全体に安定感があります。隣の塔は隅飾りの一部が欠けているだけで均整のとれた立派な塔です。かえりばな 2 基とも塔身の面に杵があり基礎の反花や格狭間の形から関東型宝篋印塔といえます。



庚申塔 (寛文 3 年)



宝篋印塔 (永正 5 年)

蓮昭寺の石仏 (地図番号⑬)

蓮昭寺の開基は小田原北条氏の家臣、布施佐渡守康純です。佐渡守は日蓮宗で最も古い寺の妙本寺(鎌倉)の塔頭本行院の 11 世日雄と対面した後、一族が皈依したといわれます(平塚市史 13 上)。同族から一人出家して僧となった日言が蓮昭寺を開山し、妙本寺の末寺首座の寺となりました。

題目塔 本堂北側の住職の墓域に 3 基の題目塔が祀られています。

入口右側に 2 基ならんでいる左側の塔身 92cm の塔は、聖人五百年遠忌に題目講中が建てました。聖人独特の書体は「髭題目」と言われ「南無妙法蓮華經」の 7 文字の中心の「法」以外は筆先まで髭のように跳ね、躍動感と力強さに溢れています。

手水石 江戸時代に奉納された手水石は市内に 33 基あります。

奉献者は村中、講中などの地元や檀家衆が多いのですが、この手水石は、遠く離れた集落「大磯南下町」の世話人中が、魚の行商が繁盛したお返しに奉納したと伝えられています。



題目塔 (天明元年 (1781))



手水石 (天保 2 年 (1831))